



町制施行70周年記念事業

町制施行70周年記念『封人の家』俳句交流会（7月2日）

～芭蕉を偲び、「封人の家」に愛好家集う～

元禄2年（1689）、俳聖「松尾芭蕉」は弟子の「河合曾良」とともに小国郷（当時の最上町）に入り、そこで思わぬ大雨に遭ったため堺田村にて宿を求めたとされています。今回の俳句交流会「以下、句会」は335年前、2泊3日にわたりここに滞在したであろう芭蕉を偲びつつ、当時の雰囲気が感じられる「封人の家」を舞台に行なわれました。



句会には、町内のみならず、尾花沢市や村山市からも俳句の愛好家たちが参加。今回のお題は、芭蕉が滞在した時期にちなみ「夏の雨」に関するお題句を含む計48句に対し、作者名が伏せられた状態で参加者らが各々選考。その後は、互いに評価・批評し合いながら進められました。

初心者から熟練者までの幅広い方々が参加しているため、同じ句でも詠む人により視点が異なったり、解釈の仕方が様々という面白さも生まれ、選者である大類つとむ氏（尾花沢市）の添削や解説に、皆真剣に耳を傾けメモを取る姿が印象的でした。投句のみで完結する普段の最上町俳句大会とはまた違った奥深さがあり、集った者の感性や思考が通い合う中でお互いを高め合えることは、対面が故に実現できる句会ならではの醍醐味ではないでしょうか。

【最優秀句】

『山刀伐ににおい生まれて夏の雨』

尾花沢市 大類響子

【選者特選】

こあしさい
『濃紫陽花杖より低く母帰る』

最上町 松田佳津江

【優秀句】

ばんりよく
『萬緑や賢治の手帳にめくり癖』

尾花沢市 大類準一

町制施行70周年記念 赤倉温泉旅館部会モルック大会（7月7日）

～決勝戦では接戦の末「チームTK」が勝利～

7月7日、赤倉温泉の「湯の原」で行われたモルック大会。今大会は町制施行70周年記念事業として行われました。参加者数は約30名、9チームが出場。中には東京都や群馬県からお越しいただいた方もいました。大会はトーナメント戦で行なわれ熱い戦いが繰り広げられました。決勝戦は「チームTK」対「third time」。お互い町内のチーム同士で一進一退の攻防が続く中、先に50点びつかりに点数を合わせたのが「チームTK」。接戦を制し見事優勝に輝きました。

このモルックというスポーツは、老若男女問わず楽しむことができ、継続することで健康増進にも良いと参加した方々が話してくれました。興味がある方は来年度に向けてぜひ挑戦してみてください。



町制施行60年から
69年まで

10年間の出来事

あなたと共に歩んできた70年 最上町を振り返る 2014年（平成26年）～2023年（令和5年）まで



2017年（平成29年）
2度目の全国中学校スキー大会
昭和49年以来43年ぶりとなる、全国中学校スキー大会が赤倉温泉スキー場で開催された。



2017年（平成29年）
若者定住モデルタウンが完成
旧紅梅荘跡地に、子育て世帯を対象とした居住エリアを整備。



2014年（平成26年）
皇太子様が行啓で紅梅荘をご視察
今上天皇陛下が平成26年10月に当町をご視察。



2019年（令和元年）
日帰り温泉「おくのほそ道」
赤倉ゆけむり館完成



2019年（令和元年）
新型コロナウイルスの蔓延
町では新型コロナウイルスの感染防止とワクチン接種、補助金や保障などの支援を実施。



2018年（平成30年）
集中豪雨により河川が氾濫
最上小国川が氾濫し道路が冠水。町内では141名の方が避難所へ避難した。観測史上最大の雨量を記録。



2023年（令和5年）
道の駅もがみが完成
国道47号の利便性、新たな観光交流、情報発信の拠点として期待されている。最上町観光協会が常駐して観光案内を行なっている。



2022年（令和4年）
全国高等学校スキー大会が開催
全国の高校生が頂点を目指して4日間にわたり、熱戦が繰り広げられた。町には県外から約1,000人もの選手、大会関係者が滞在した。



2020年（令和2年）
待望の最上小国川ダムが完成
事業開始から12年かけて完成した流水型ダム。東北で初の環境に優しいダムと言われている。

これからも、最上町は町民の皆様とともに
歴史のページを積み重ねていきます。

100年先へとつながる未来へ